

# 事業報告書

自 令和 2 年 4 月 1 日  
至 令和 3 年 3 月 31 日

## I. 事業活動に関する事項

### [主催事業]

#### 1. KAWASAKI しんゆり映画祭

##### ■ 2020 年度 ボランティア全体会

期間：2020 年 6 月～2021 年 3 月

内容：映画祭事業の連絡、各セクションの活動報告・打合せ、ボランティア交流

会場：川崎市アートセンター ほか

ボランティア全体が集まる全体会を 1～2 か月に 1 回程度実施した。映画祭実行委員会で協議された情報の共有や軽作業（ダイレクトメール発送準備など）も行われた。今年度はコロナウイルス感染症への対応の為、オンライン会議室システムも併用して行われた。

2020 年度の開催日は 6/6、8/29、10/18、11/7、3/14 の計 5 回。

##### ■ 映画祭ボランティアスタッフ意見交換会

実施日：2020 年 7 月 26 日（土）、8 月 22 日（土）

会場：新百合 21 ホール

2019 年度の映画『主戦場』上映取り止めをめぐる事態を、現在のスタッフだけでなく、過去に映画祭に関わった元スタッフにも呼びかけて、どのように受け止め、考えていくべきかについて意見交換会を行った。現スタッフに加え、外から事態を見守っていた過去スタッフも交えて、率直に意見を出し合った。8 月 22 日（土）には映画祭のあり方について考えるため、中国のドキュメンタリー映画『映画のない映画祭』（2015/監督 王我）の視聴会を実施。北京インディペンデント映画祭が開催前日に当局によって閉鎖された事件の顛末を記録した作品を鑑賞し、「表現の自由」をめぐる問題についての理解を深めた。



## ■ 映画祭ボランティアスタッフ学習会

実施日：2020年9月22日（火・祝）、10月4日（日）

会場：新百合21ホール

映画祭と「表現の自由」について、文化芸術の活動・イベントにおけるリスクマネジメントのあり方などについて、外部の有識者を講師として招き学習会を計2回実施した。

第1回の講師には、岩崎貞明氏（メディア総合研究所事務局長・雑誌「放送リポート」編集長）をお呼びし、「表現の自由展」実行委員も務められてきた視点から、「表現の不自由展」が生まれた背景とあいちトリエンナーレ2019企画展「表現の不自由展・その後」をめぐる一連の経緯をご紹介いただきながら、その後の「あいちトリエンナーレのあり方検討委員会」調査報告書も含めた問題点や課題などについてお話しいただいた。

第2回の講師・志田陽子氏（武蔵野美術大学教授・憲法、芸術関連法）には、憲法や法律の視点から『表現の自由と行政の中立－市民映画祭について考える』をテーマに、あいちトリエンナーレ2019をはじめ「表現の自由」と「行政の中立」の関係が問題となった国内事例を紹介いただきながら、「表現の自由」からみた行政との関係や今後の映画祭の可能性などについてお話しいただいた。

## ■ 2020年度 ボランティアスタッフ研修

期日：2020年9月26日（土）

内容：ボランティア研修 ～施設利用ガイダンス

会場：川崎市アートセンター（小劇場・映像館）

川崎市アートセンターをメイン会場として映画祭を実施していることから、アートセンター職員の協力を得て施設の特徴や利用方法について、研修を実施した。2つの会場で使用内容や注意点が異なることもあり、各会場を実際に見ながら使用方法、避難経路の確認、設備の特徴の確認を行った。上映素材の種類、接客のポイントなど多岐にわたり、新規のスタッフはもちろん長年映画祭のスタッフを務めてきたメンバーも改めて再確認を行う場となり、本番前に欠かせないものとなっている。今年度は研修当日の様子をビデオで撮影し、当日参加できなかったスタッフへのフォローも行った。



## ■ 川崎市市民文化局市民文化振興室との連絡調整会

映画祭事業の連絡体制の改善のため、市民文化振興室の担当職員との連絡調整会を新たに設けて実施した。主催法人のKAWASAKI アーツからは藤田理事長や安岡実行委員長が出席し、映画祭事業の作業進捗などを報告し、調整などを行った。

2020年度の実施日は6月12日（金）、7月30日（木）、8月20日（木）、2021年2月24日（水）の計4回。

## ■ 共催団体との合同連絡会

共催団体との連絡体制の改善のため、川崎市、川崎市文化財団（川崎市アートセンター）、川崎市教育委員会、日本映画大学、昭和音楽大学、（一財）川崎新都心街づくり財団の担当者との合同連絡会を実施した。上映予定作品や連続オンライン講座を含めた 2020 年度の映画祭実施概要を伝え、意見交換を行ったほか、新型コロナウイルス感染症拡大状況を見て、最終的な開催の可否の判断時期を確認した。2020 年度の実施日は 2020 年 9 月 15 日（火）、9 月 30 日（水）の計 2 回。

## ■ 6 月～8 月 プログラム選定

2016 年から実施している、ボランティアスタッフ内から上映作品案を募り、投票して上映を検討するという方法を取り入れて 5 年目となった。コロナ禍の中で作品の募り方や投票方法の改善が行われた。プログラムセッションで、継続企画の上映作品選定や全体調整等を 6 月～8 月まで定期的に会議を実施し確定させた。

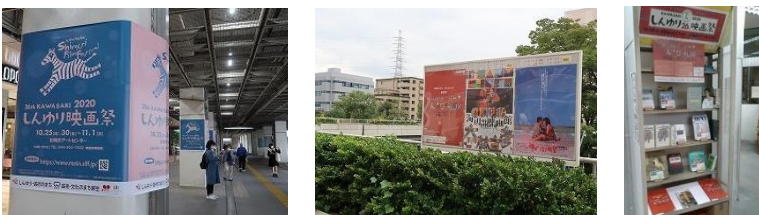
## ■ 8 月～10 月 広報宣伝物、WEB ページ等の作成

プログラム決定を受け、チラシの制作やホームページ・Facebook・twitter の更新等が行われた。昨年同様 A4 四つ折りリーフレット（12 ページ仕様）を作成、来場ゲスト情報も加えた上映作品情報に加えて、街の情報なども入れた充実の内容となった。映画を上映するだけでなく、コロナ禍の中、新百合ヶ丘という街へ映画を通して何かできないかと考え、地域の飲食店を「映画」というキーワードでつなげる「お店紹介MAP」の作成も行い、日々の生活の中で「映画」の持つ力や繋がりを届けることができた。



## ■ 9 月～11 月 広報活動

映画祭がスタートした 1995 年から実施している駅前でのポスター展を今年も実施した。また、川崎市の協力による川崎駅アゼリアビジョンでの予告編の放映、麻生区の協力による駅前のバスターミナルの柱巻広告も実施した。小田急電鉄の協力による駅構内への映画祭ポスターの掲示、川崎市アートセンターでの入場時間を利用しての予告編上映など、実績のある広報を中心に展開された。



## ■ 第 26 回 KAWASAKI しんゆり映画祭 2020 (本祭)

期日：2020年10月25日(日)、30日(金)～11月1日(日)

場所：川崎市アートセンター アルテリオ映像館・アルテリオ小劇場

### [本祭実施概要]

- 主 催 NPO 法人 KAWASAKI アーツ
- 企画・運営 NPO 法人 KAWASAKI アーツ・KAWASAKI しんゆり映画祭
- 理 事 長 藤田朝也
- 映画祭代表 安岡卓治
- 共 催 川崎市、川崎市アートセンター、川崎市教育委員会、日本映画大学、  
(一財)川崎新都心街づくり財団、昭和音楽大学
- 後 援 新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム、麻生区文化協会、  
NPO 法人しんゆり・芸術のまちづくり、「映像のまち・かわさき」推進フォーラム
- 協力・協賛 小田急電鉄(株)、新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム、  
(株)エーイーティー、小田急新百合ヶ丘エルミロード、(有)柿生恒産、  
(株)カジノヤ、川崎商工会議所、川崎信用金庫、(株)川崎フロンターレ、  
河津造園土木(株)、新百合ヶ丘商店会、新百合丘農住都市開発(株)、  
セレサ川崎農業協同組合、ホテルモリノ新百合丘、三井ホーム(株)、カンガルー、  
Ti-da Bar、パティスリーエチエンヌ、チャンキー・チャンキー、  
(株)北島工務店、イオンシネマ新百合ヶ丘、イオンスタイル新百合ヶ丘、
- 期 間 10月25日(日)、30日(金)～11月1日(日)
- 会 場 川崎市アートセンター・映像館(113席)、小劇場(195席)
- 上映作品数 10作品 ●登 壇 7名+1団体
- 総入場者数 836名(本祭) ●ボランティア 42名
- リーフレットキャッチコピー 「映画とともに まちとともに」

### ●上映作品と企画枠

【映画って自由だ！～2人の巨匠に感謝をこめて～】

「神々の深き欲望」「海辺の映画館—キネマの玉手箱」

【違いがあってもいいじゃない～共に生きよう！～】

「島にて」「だってしょうがないじゃない」「SKIN/スキン」「淪落の人」「タレントタイム～優しい歌」

【アニメーションの奥深き世界へようこそ！】

「劇場版ごん—GON, THE LITTLE FOX—」「音楽」

【クラッカー発砲可能&応援コメントリー上映】

「T-34 レジェンド・オブ・ウォー」

【しんゆりバリアフリーシアター】

「だってしょうがないじゃない」(バリアフリー日本語字幕付)、  
「タレントタイム～優しい歌」(副音声イヤホンガイド付)、「島にて」(UD-CAST サービス付き)

合計 10 作品

●登壇者 (敬称略、順不同)

田中圭(映画監督)、月永理絵(映画ライター)、小林亜希子(二胡演奏者)、  
坪田義史(映画監督)、近藤武夫(東京大学先端科学技術研究センター准教授)、  
八代健志(映画監督)、岩井澤健治(映画監督)

V8JAPAN 絶叫上映企画チーム (\*オーディオコメンタリー出演)

合計 7 名+1 団体

●動員数データ

チケット売上枚数 733 枚 招待 103 名 観客動員数 836 名

有料プログラム数 10 プログラム (10 作品) 合計上映回数 21 回

2020 年度は「映画とともに まちとともに」をキャッチコピーに、映画の魅力や映画祭の持つ役割を改めて見つめ直した年となった。

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の為、開催期間を4日間に縮小し、川崎市アートセンター・アルテリオ映像館・小劇場の2会場で客席の使用を半分に実施。10作品を合計21回上映、7名のゲストに登壇いただき、836人のお客様にご来場いただいた。

地域とのつながりをもった監督やアーティストによる上映イベントの実施や、独自収録を行ったオーディオコメンタリー付き上映なども行われた。まちの発展とともに続いてきた「KAWASAKI しんゆり映画祭」がこのような時期に出来ることを市民でもある参加スタッフ自身が考え、行動する場となった。



■オープニング実行委員長挨拶



■会場装飾の様子



■チケット・販売の様子



■八代健志監督「ごん」



■岩井澤健治監督「音楽」



■田中圭監督「島にて」



■月永理絵様「淪落の人」



■「だってしょうがないじゃない」



■小林亜希子様「タレントタイム」

#### □バリアフリーシアターの実施

映画祭で取り組んでいるバリアフリー上映は今年で24年目。視覚障がいをお持ちの方に向けた副音声ガイド付き上映、聴覚障がいをお持ちの方に向けたバリアフリー日本語字幕付き上映、子育て中の方に向けた映画鑑賞中にお子さんをお預かりする保育付き上映などを実施。

2020年は新型コロナウイルス感染症対策のため保育付き上映は見合わせたが、UDCast®付の作品上映という新たな挑戦にも取り組んだ。視覚障がいや聴覚障がいをお持ちの方それぞれに向けて音声ガイドや字幕表示ができるアプリケーションである、UDCast®に対応している作品『島にて』を上映。これにより、障がいをお持ちの方にも楽しんでいただける映画本数が例年よりも増加した。

副音声ガイド付き上映では、これまでに制作されたアーカイブから『タレントタイム～優しい歌』を上映。劇中の印象的な二胡の演奏シーンにちなみ、上映後に二胡のミニコンサートを企画実施し、障がいのあるなしに関らずお楽しみいただける工夫がされた。

バリアフリー日本語字幕付き上映は、監督がADHDの診断を受けたことをきっかけに、広汎性発達障がいの当事者でもある叔父を3年にわたって撮影したドキュメンタリー映画『だってしょうがないじゃない』を上映。トークイベントでは、坪田義史監督、東京大学先端科学技術研究センターの近藤武夫准教授、発達障がいの当事者でこの上映企画を行った映画祭スタッフが登壇し、「障がい」の捉え方に関して等バリアフリーについての理解が深まるイベントとなった。

2018年の「第10回あさお芸術・文化交流カフェ」の中で、車いす利用の方からのご意見をもとに新百合ヶ丘駅周辺の文化・芸術施設のバリアフリーマップ作成を提案、独自にマップを試作した活動を契機に、今年度、麻生区の地域課題対応事業の一つとして「NPO 法人しんゆり・芸術のまちづくり」による13施設の本格的なバリアフリーマップが作成されるなど、地域と連携した活動も広がりを見せている。

#### ■連続 ONLINE 公開講座

「検証・『主戦場』上映取り止め問題とは何だったのか?」

期間：2020年10月24日（金）～11月1日（日） 全6回

場所：オンラインでの配信（VIMEO）

参加者数：合計159名

（第1回47名 第2回24名 第3回24名 第4回22名 第5回22名 第6回20名）

この講座ではホストを映画祭代表の安岡卓治が務め、各回に講師を招き、昨年の上野のしんゆり映画祭で起

こった『主戦場』上映取り止め問題を振り返り、課題や映画祭が担うべき役割などを学ぶ機会となった。一連の経緯や問題点を多視点から振り返ることで、市民が企画・運営する映画祭として大切にすべきことを改めて確認することができた。この講座の内容は収録を行い、本祭と同時期に各回 60 分程の動画として有料配信が行われた。講座内容と各回のゲストは以下の通り。（敬称略、順不同）

第 1 回 「経過検証①その時、何が起こったのか？」

講師：金平茂紀(TV ジャーナリスト)、森達也(映画監督)

第 2 回 「経過検証②作り手の決意」

講師：白石和彌(映画監督)、井上淳一(脚本家)

第 3 回 「経過検証③論議を求めて」

講師：大澤一生(プロデューサー)、瀬瀬あや(映画監督)

第 4 回 「映画を観客に届けるということ」

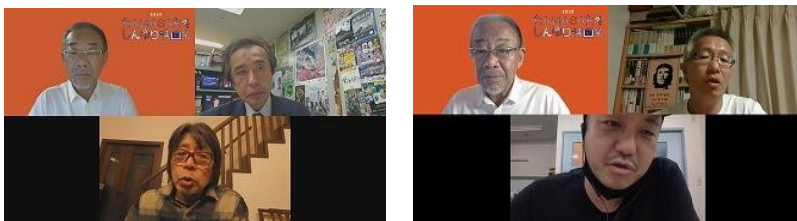
講師：渡辺祐一（配給：合同会社東風）、小林三四郎(配給：太秦株式会社)、

第 5 回 「映画の危機、映画祭の危機」

講師：深田晃司(映画監督)、綿井健陽(ジャーナリスト)

第 6 回 「映画祭が果たすべき役割」

講師：石坂健治(東京国際映画祭シニア・プログラマー)、  
藤岡朝子(山形国際ドキュメンタリー映画祭理事)、  
志尾睦子(NPO 法人たかさきコミュニティシネマ代表理事)



#### ■ジュニア映画シナリオワークショップ 協賛：小田急電鉄株式会社

期間：2020年12月6日（日）～2021年2月7日（日） 計5回

場所：オンライン会議室（ZOOM）

講師：三浦有為子（脚本家）

参加者数：2名

川崎市とその周辺に在住・在学している中学生を対象とした映画シナリオワークショップ。コロナ禍の中での安全面を考慮し、オンライン会議システムを活用して、全5回で開催。脚本家として映画・テレビで活躍する三浦有為子氏を講師に招き、映画制作の“第一歩”として脚本作りの基本的知識やハウツーを学ぶことから始め、15分程度のオリジナル短編シナリオの執筆を行った。各実施日の間隔を2週間空け、参加生徒が十分に課題に向き合う時間が取れるように配慮したスケジュールで実施した。ゲスト講師として映像制作会社のプロデューサー井上浩正氏に参加いただき、参加生徒の脚本へ講評やアドバイスをいただいた。映画祭で副音声制作を行っているバリアフリーセッションから声優2名の協力を得て、完成直前の脚本の読み合わせを行うなど、充実した内容となった。

広報として11月中旬より川崎市教育委員会の協力で、市内公立中学校に募集チラシ等を配布した。



## ■今年度の総括と来年度への取組み

2020年度の本祭は、川崎市アートセンター映像館・小劇場を会場に、10/25（日）、30日（金）～11/1（日）上映作品は全10作品で開催した。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、上映日数の短縮、客席数を半数に減らす対応をとり、来場者アンケートにおいて安心して楽しめたと多くのご意見をいただき、465件の有効回答者のうち453名が十分な感染症対策がとられていたと評価していただいた。

作品に対して来場者アンケートでは97.5%のお客様から、「非常に良かった」「よかった」の評価をいただいた。単体上映回では10/25の「タレントタイム～優しい歌」の二胡演奏付き上映回が1番の入場者数を記録した。期間を通じての総動員数は836名となった。

バリアフリーシアターでは、副音声イヤホンガイド付き上映と、聴覚障がい者向け日本語字幕付き上映が行われた。今年には以前に収録を行った「タレントタイム～優しい歌」の再上映を行った。聴覚障がい者向け日本語字幕付き上映は、「だってしょうがないじゃない」を上映。この作品は発達障害を扱ったドキュメンタリーで、監督のほかに、研究者をお呼びしたゲストトークを行うなど、映画の魅力や楽しみ方の幅を広げるだけではない、映画を通して学ぶという場を設けることができた。ゲストトークを行った上映回には多くの障害をお持ちの方やその家族が会場にお越しいただき、満席となった。

今年度はコロナ禍の影響により、実施期間と上映本数を縮小し、オンラインも活用した実施となった。まちの発展とともに続いてきた「KAWASAKI しんゆり映画祭」がこのような時期だからこそ出来ることはなにかということ、市民でもある参加スタッフ自身が考え、行動を起こす場となり、上映機会が少なくなってしまった良作の上映や、地元のアーティストによる演奏会の実施、映画を通してまちの飲食店を紹介する「地域応援MAP」の作成なども行い、映画とまちをより強く繋ぐことが意識された年となった。

今後も映画を媒介として、地域や市民活動ともつながる企画を行い、この地域の特色と強みを活かして発展をさせていきたい。

昨年度の映画祭での「『主戦場』上映取り止め問題」を振り返るオンライン講座が行われ、多くのスタッフが参加した。映画や映画祭が担う役割を改めて学び直す機会が得られ、今後の映画祭を続けていくにあたって貴重な学びの機会となった。収録された講座は有料配信が行われ、一般公開を行った。

ジュニア映画制作ワークショップは、コロナ禍の為、オンラインでの「ジュニア映画シナリオワークショップ」に企画を変更して実施した。オンラインでも受講生の積極的な参加があったほか、オンライ



ワークショップでの注意すべき点や、利点などの発見もあった。

広報については、例年行っている川崎市と麻生区を通しての媒体の他、麻生区協力による柱巻き広告や小田急電鉄の協力による駅構内のポスター設置、麻生図書館での企画棚の作成も継続して行われた。また、10月前半の映画祭期間外に川崎市アートセンターの入場時間を利用した映画祭上映作品の予告編を流していただく取り組みも継続して行われた。

2020年度は、新規スタッフの募集は見送り、継続スタッフのみでの運営を行った。運営スタッフ人数の確保、新型コロナウイルス感染症対策スタッフの確保に苦勞する場面もあり、新規スタッフ募集方法、追加スタッフの呼びかけや、他団体の協力依頼や依頼先の開拓など対応策を検討していきたい。

## [企画・制作事業]

### 1. バリアフリーシアター制作事業

1997年より活動している「バリアフリーシアター制作事業」は2020年で23年目を迎えた。

#### (1) 視覚障がい者向けの音声ガイド制作

2020年は新型コロナウイルスの感染拡大により3月に緊急事態宣言が発出され、大勢が密閉された空間に集まることが感染拡大につながるとして、一時、川崎市アートセンターは休館、その後も定員の2分の1に観客を制限する期間が続いた。その影響により、川崎市アートセンターからの委託による視覚障がい者が劇場で映画を楽しむための音声ガイド制作は、前年度の半分にあたる3本の外国映画に対して行われた。

#### ◆ 川崎市アートセンターの委託により音声ガイドを作った作品 ◆

- ①『チア・アップ!』副音声ガイド台本 日本語吹替 (申込22組、送迎3名)
- ②『82年生まれ、キム・ジョン』副音声ガイド台本 日本語吹替 (申込9組、送迎2名)
- ③『甦る永遠の歌声、三大テノール』副音声ガイド台本 日本語吹替 (申込34組、送迎10名)

音声ガイド付き上映のお知らせは、上映日の1か月ほど前にアートセンターから、アルテリオシネマニュースのメール配信、希望者へのメールと点字チラシ郵送で実施。アートセンター上映作品では、2本の作品に対しては各3回、1本の作品に対しては、アンコール上映を含めて4回、合計10回のバリアフリー上映を実施した。

#### 〈音声ガイド付上映での視覚障がい者の受付及び送迎と介助〉

各上映の音声ガイド付上映の予約状況は、上記の通り。申込には、利用者が依頼した介助者も含まれている。利用者から鑑賞後の感想を聞き、音声ガイドに対する不満や希望は、メールや台本チェック時などでスタッフと共有し、その後のガイド作りに反映するように努めている。

#### 〈新型コロナウイルス感染拡大(パンデミック)下における音声ガイド制作の変化〉

制作チーム内のサンプル映像試写では、アートセンターの録音室に集まり鑑賞していたのを、各自がサンプルDVDを借りて各々で順次鑑賞するようにした。

音声ガイド台本校正作業では、1回6時間で2回～4回、スタッフ全員がアートセンターの録音室に集まって行っていたが、Zoomを利用したオンラインに切り替え、自宅のパソコンや、アートセンターの研修室から人数を2～3名に制限し、感染防止対策を徹底してノートパソコンで参加するようにした。読み合せ作業、日本語吹替制作のキャスティング会議、収録前打合せも同じくZoomによるオンラインで行うようにした。

日本語吹替と音声ガイドの収録では、録音編集担当がコロナ禍の仕事の現場で実際に経験して提案してくれた「完全個別収録」を実践した。収録は、声優の希望時間帯に沿い、声優一人につき30分～3時間の時間割を組んだ。通常であれば、録音編集担当、演出者、書き手、制作担当が同席するが、人との接触を極力避けるため、録音編集担当に2日間の収録の演出、機材消毒を任せた。別に2名の制作担当者が2日間交代でスタジオの外で声優の受付をした。

Zoomによるオンラインでの台本チェックや読み合せの問題点として「映像が滑らかに動かない」「音声ガイドを読んでいる声が途切れる」「映像と音声がズレる」といったことが起こった。参加者同士の会話は、スムーズにできるが、データ量の多い映像を共有したときに起こり、共有する側と受け取る側のインターネットの接続環境をどう整えればいいのか探っていく必要がある。

## (2) スタッフブログによる情報発信

平成24年6月からスタートしたブログ・バリアフリーシアター活動日誌（[http://barrierfree.theater.sblo.jp/archives/201206\\_1.html](http://barrierfree.theater.sblo.jp/archives/201206_1.html)）は、10年間続いている。ブログでは、制作チーム・スタッフがガイド台本制作の様子やバリアフリー上映、制作スタッフの声や映画に関する話題を毎月1、2回程度発信している。活動の足跡を伝える貴重な記録となっている。

## 2. 劇団わが町

アートセンター創設時より、ふじたあさやが中心に企画していた市民のための市民による新百合ヶ丘の市民劇団。2012年6月に生まれた新しいゆるやかな劇団。劇団員は地域住民の方々を中心に構成されている。年齢制限はなく、現在11～78歳までのメンバーが所属。しんゆりシアターのラインナップの一翼を担い、長期的に様々な創造活動を行なっている。

### ■しんゆりシアター 劇団わが町

第10回公演 「グスコブドリの伝記」

開催期間：2021年2月6日（金）～7日（月祝）全4回公演

会場：川崎市アートセンター アルテリオ小劇場



■公演チラシ



■作品場面写真

2012年より始まった、劇団通算第10回目の公演となる舞台は、宮沢賢治の『グスコーブドリの伝記』。1982年にふじたあさやが劇団えるむで脚色・演出したものを、宮沢賢治が4人登場する等、わが町バージョンに新しくして上演した。

原作をそのまま活かした内容となったが、作品世界の飢饉に襲われ困難に喘ぎ立ち向かわなければいけない世界が、そのまま現在のコロナ禍で困難に直面する我々と重なる状態となった。

稽古も、本来団員全員が一堂に会し行ってきたが、感染拡大防止のため、予めシーンを指定しスケジュールを組み、必要人数のみが集まって、感染予防のための消毒や換気等対策を重ねて実施した。

しかし、感染の状況により、本来2月5日より初日を迎える予定の公演は、「緊急事態宣言」及び川崎市の「緊急事態宣言下における本市行政運営方針」に基づき劇団員・スタッフとも協議を重ね、予定していた夜公演を中止し2月6日(土)13時の公演はインターネットを介したライブ配信での上演も同時に実施した。当初3日間で5回の公演を2日間で4回、夕方までに公演終了とした。

また、舞台上でも、感染症対策を考慮した演出のため、団員同士がソーシャルディスタンスをなるべく保ち、全員が衣装に加えてマスクを着用の上、販売座席数を減らし、さらに、出演者・関係者・スタッフ全員がPCR検査を受け全員陰性を確認した上で、実施した。

結果、劇団内からも来場者からも感染の報告はなく、無事公演を終了することができた。

当法人は本公演の企画・制作を担った。

## [委託事業]

本年度はなし

## II 運営組織の状況に関する事項

### 1. 事務局運営

今年度は、映画祭の2019年度上映予定作品取り下げの問題から、組織の運営体制を立て直すため、例年と異なるスケジュールで全体が進んだ。新たに発足された映画祭実行委員会会議を毎週末実施し、「映画祭再生プロジェクト」も立ち上げ、新たな実行委員長の元、様々な課題について討議を重ねた。通常業務に加え、上記に関連する新たな業務が増える一方で、新型コロナウイルスの

感染防止対策、「神奈川県文化芸術活動再開加速化事業補助金」申請等、例年になく業務の多い年となった。市民スタッフが率先して会議準備や感染症対策を担い、事務局の負担が軽減された半面、スタッフの負担も大きかった。

映画祭内での人事問題を理事会が対応する等、初めての試みもあった。

かねてより法人の課題であった財政課題について、財源確保対策部会準備会を発足し、現状の整理と課題の設定を実施した。

## 2. 事業展開

令和2年度は、映画祭事業の他の文化事業として、バリアフリー副音声日本語吹替え制作、劇団わが町企画・制作を行った。2015年から主催をしている company ma の公演に関しては、新型コロナウイルス感染症の感染状況により、今年度は実施を見送ることとした。

## 3. 役員

役員の名前及び職制上の地位

地位／氏名／専門

理事長／藤田朝也／演劇・ミュージカル

理事／黒田隆／音楽

理事／千葉茂樹／映画・映画祭

理事／森正敏／演劇

理事／安岡卓治／映画・映画祭

理事／岩倉宏司／宣伝・広報

理事／大谷賢治郎／演劇

監事／白鳥あかね／映画・映画祭

顧問／佐藤忠男／映画評論家

シニア・アドバイザー／下八川共祐／昭和音楽大学理事長

シニア・アドバイザー／岩崎敬／環境デザイナー

以上

## 貸借対照表

令和3年3月31日現在

特定非営利活動法人KAWASAKIアーツ

(単位:円)

科目	金額		
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	6,254,283		
未収金	1,747,300		
流動資産合計		8,001,583	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
車両運搬具	0		
什器備品	0		
その他の有形固定資産	0		
有形固定資産計	0		
(2) 無形固定資産			
ソフトウェア	0		
無形固定資産計	0		
(3) 投資その他の資産			
敷金	0		
投資その他の資産計	0		
固定資産合計		0	
資産合計			8,001,583
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金	44,000		
前受民間助成金			
短期借入金	4,109,882		
未払費用	0		
未払法人税等	140,000		
預り金	18,510		
流動負債合計		4,312,392	
2. 固定負債			
長期借入金	0		
退職給付引当金	0		
固定負債合計		0	
負債合計			4,312,392
<b>III 正味財産の部</b>			
前期繰越正味財産		3,310,092	
当期正味財産増減額		379,099	
正味財産合計			3,689,191
負債及び正味財産合計			8,001,583

## 活動計算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

特定非営利活動法人 KAWASAKIアーツ

(単位:円)

科目	金額	
<b>I 経常収益</b>		
1. 受取会費		
会員受取会費	45,000	45,000
2. 受取寄附金・協賛金		
受取寄附金	130,000	
受取協賛金	650,000	780,000
3. 受取助成金・委託金等		
川崎市負担金	6,000,000	
日本芸術文化振興助成金	1,492,000	
麻生区地域振興課 区委託金	0	
文化財団委託金	220,000	
その他助成金・委託金	1,000,000	8,712,000
4. 事業収益		
①芸術文化を通じたまちづくり事業収益(映画祭事業)		
チケット販売物販収益	872,802	
広告収益	775,300	
その他収益	47,700	
②文化芸術振興事業収益		
バリアフリー委託費(文化財団)	930,000	
映画製作費収益	0	
その他収益	0	2,625,802
5. その他収益		
受取利息	46	
雑収益	56,103	
借入金債務免除益	0	56,149
経常収益計		12,218,951
<b>II 経常費用</b>		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	3,670,000	
福利厚生費	51,734	
雑給	0	
謝礼	363,000	
人件費計	4,084,734	
(2) その他経費		
フィルム仕入	794,000	
その他仕入	18,080	
広告宣伝費	946,533	
リース料	11,220	
地代家賃	1,769,981	
事務用消耗品費	129,966	
通信交通費	731,827	
外注費	1,318,210	
交際費	117,175	
保険料	8,320	
備品消耗品費	499,194	
貸借費	169,440	
会議費	196,102	
減価償却費	199,208	
租税公課	3,900	
諸会費	36,000	
支払手数料	97,297	
その他経費等	638,665	
その他経費計	7,685,118	
事業費計		11,769,852
2. 管理費		
(1) 人件費		
役員報酬	0	
.....		
人件費計	0	
(2) その他経費		
会議費	0	
.....		
その他経費計	0	
管理費計		0
経常費用計		11,769,852
当期経常増減額		449,099
<b>III 経常外収益</b>		
1. 固定資産売却益	0	
過年度損益修正益	0	
経常外収益計		0
<b>IV 経常外費用</b>		
1. 過年度損益修正損	0	
.....	0	
経常外費用計		0
税引前当期正味財産増減額		449,099
法人税、住民税及び事業税		70,000
当期正味財産増減額		379,099
前期繰越正味財産額		3,310,092
次期繰越正味財産額		3,689,191

※今年度はその他の事業を実施していません。

財産目録

令和3年3月31日現在

特定非営利活動法人KAWASAKIアーツ

(単位:円)

科目		金額	
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	6,254,283		
未収金	1,747,300		
流動資産合計		8,001,583	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
車両運搬具	0		
什器備品	0		
その他の有形固定資産	0		
有形固定資産計	0		
(2) 無形固定資産			
ソフトウェア	0		
無形固定資産計	0		
(3) 投資その他の資産			
敷金	0		
投資その他の資産計	0		
固定資産合計		0	
資産合計			8,001,583
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	44,000		
前受民間助成金			
短期借入金	4,109,882		
未払費用	0		
未払法人税等	140,000		
預り金	18,510		
流動負債合計		4,312,392	
2. 固定負債			
長期借入金	0		
退職給付引当金	0		
固定負債合計		0	
負債合計			4,312,392
正味財産			3,689,191